

NewsLetter 臨時増刊号

理事長挨拶

慶應義塾大学医学部 教授 金井 隆典



2020年9月1日付で、日本消化器免疫学会の第4代理事長に選任されました。重責ではありますが、今、とてもやり甲斐を感じております。これまで本学会に多大な貢献をされました、恩師である故土屋雅春初代理事長、日比紀文第2代理事長、渡辺守第3代理事長の足跡をさらに発展できればと改めて身の引き締まる思いです。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

日本消化器免疫学会は、1978年に慶應義塾大学医学部内科学（消化器）の故土屋雅春先生らが中心となって、「消化器と免疫研究会」として発足しました。当時未開の分野であった消化器領域における免疫学を臨床医だけでなく、たくさんの著名な免疫学者の先生も参加くださいり、年2回、東京、旧経団連ビルの会場で1日半かけ熱い発表と議論が繰り広げられていました。私も大学院時代から参加し、緊張しながらも、本学会の前身でもある「消化器と免疫研究会」に鍛えられたことを今でも鮮明に覚えています。特に、免疫学の先生の教室からの最新の分子生物学の手法を用いた研究は、臨床医の研究者に衝撃的なインパクトを与えただけではなく、臨床医も分子生物学の技術を習得し、研究内容も随分と洗練されていきました。このことは極めて重要なことで、「消化器と免疫研究会」会員の研究者は、他の臨床医学領域に比べても早期から最新の研究手法を「消化器と免疫研究会」会員の免疫学者との交流を通じて取得す

ることができました。改めて、創始者である故土屋雅春先生の卓越した、未来を予測する洞察力に敬意を感じざるをえません。1996年には「消化器と免疫研究会」は「日本消化器免疫学会」と学会に衣替えを行い、2020年までに通算57回開催されてきました歴史ある学術集団です。

1997年に、日比紀文先生が第2代理事長に、2014年に渡辺守先生が第3代理事長に就任され、学会は若い研究者も加わり、益々発展してきております。特筆すべきことは、本学会が歩んできた過去40年間、消化器免疫疾患領域におけるたくさんの免疫学の発見の成果によって、様々な臨床応用が現実のものとなり、現在の消化器免疫学領域は、今まさに、エキサイティングな分野となっていることです。また、消化器という臓器が全身に影響し、臓器を超えた学問領域と進化していることもあり、消化器免疫学の重要性がさらに明らかになってきています。

本学会の素晴らしい点は、消化器免疫学という学際領域の課題に対して、基礎医学者と臨床医が一緒になって活発な議論を行うことです。また、消化管、口腔、肝臓、胆嚢、腫瘍、感染と臓器を超えて、消化器免疫学を発展させることが設立当初から貫かれています。学会を終えると、参加者の多くがたくさんのこと学び、刺激され、次なる挑戦へのヒントを得ることが可能な学会と信じています。現在、会員数は微増を続けておりますが、

約360名と比較的小規模な学会です。しかし、これには大きな意味があると思っております。本当に消化器免疫学が好きで、いつもワクワクするからと会員になられている方々ばかりだからです。多くの若手研究者が次々と参加してくださり、本

学会の伝統のバトンを将来に引き継いでくれることを願ってやみません。最後に改めて、本学会がさらに発展するために、全身全霊で取り組む所存であります。会員皆様のあたたかいご支援をよろしくお願い申し上げます。

理事長退任のご挨拶

東京医科歯科大学 学術顧問・副学長、高等研究院特別栄誉教授 渡辺 守



日本消化器免疫学会は、1978年に慶應義塾大学内科（消化器）の故土屋雅春名誉教授らが中心となって、当時未開であった消化器分野における免疫学の研究を行う基礎分野および臨床分野の研究者の研究成果発表と討論の場として発足した「消化器と免疫研究会」を基盤としている。回を重ねて、1996年に「日本消化器免疫学会」として学会に発展した。毎年開催される学術集会には研究会の時代から通算すると2021年には第58回を数え、『消化器分野における免疫学』という比較的専門的な領域を対象とする歴史ある学術団体である。

私は2014年8月付で、日本消化器免疫学会の第3代理事長に選任された。私の恩師である故土屋雅春初代理事長と日比紀文第2代理事長の後任であり、重責に身の震える思いがした事を覚えている。その後6年間多くの先生にご支援を戴き、少しでも本会の発展のために尽くせたと思っている。

本学会は1997年に日比紀文先生が第2代理事長に就任されてから、学会の活性化が図られた。免疫が関与する消化器疾患の研究に熱意のある研究者と臨床家が集まり、最先端の研究成果に発表と密接なディスカッション、情報のコミュニケーションを通じて、さらには国際交流を活発化することによって世界をリードする一流の研究成果が本学会より発信された。

研究会発足当時は、免疫学的研究の手段も限ら

れ、免疫学的機序が関与する消化器疾患としては炎症性腸疾患などごく少数の疾患に限られていた。その後の免疫学的手法の進歩と相まって、上部消化管や肝胆脾の分野のみならず、消化管腫瘍においても、病態や治療を考える上で『免疫学』が欠くべからずものとなっている。さらに、21世紀となり、消化器領域において難治性疾患の殆ど全てに免疫反応が深く関与し、その病態解明が新しい治療に結びつき、基礎的・臨床的研究の成果に一層注目が集まっている。

本学会は比較的規模の小さな学会であるが、学術集会を通して消化器免疫の領域における基礎研究ならびに臨床研究の数多くの発表により、実りある成果を得ている。本学会所属の研究者の研究内容は、欧米第一人者達のものと比べて優るとも劣らないものが多く、臨床面においても日本から世界に発信できる治療法とその成績が披露されており、今後のさらなる発展が大いに期待される学会である。

21世紀は消化管免疫が益々重要視される時代になる。私は理事長を退任するが、皆様方のご協力の元、「日本消化器免疫学会」をより良い組織に発展させて行って欲しいと切望している。今後とも、新理事長の下、各理事、各会員の先生のご協力をお願いしたい。私も一研究者として、各先生と共に研究を続けて行く覚悟である。

2020年度7月1日付で新理事を迎える、9月1日には新理事長がご就任されました。

理事長	金井 隆典	慶應義塾大学医学部 消化器内科
理事	安藤 朗	滋賀医科大学医学部 消化器内科
理事	井戸 章雄	鹿児島大学大学院 消化器病学
理事	大野 博司	理化学研究所 生命医科学研究センター
理事	大平 弘正	福島県立医科大学 消化器内科学講座
理事	坂本 直哉	北海道大学大学院医学研究科 消化器内科学分野
理事	竹田 潔	大阪大学大学院医学系研究科 免疫制御学
理事	竹原 徹郎	大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学
理事	内藤 裕二	京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科
理事	仲瀬 裕志	札幌医科大学医学部 消化器内科学講座
理事	久松 理一	杏林大学医学部 消化器内科学
理事	穂苅 量太	防衛医科大学校 内科学講座(消化器)
理事	溝口 充志	久留米大学医学部 免疫学講座
監事	樋口 和秀	大阪医科大学 第二内科
監事	斎藤 英胤	慶應義塾大学薬学部 薬物治療学

委員会メンバー紹介：2017年度より各委員会を設置し今年度は3期目となりました。

学会運営委員会 ※各委員会委員長で構成	学術委員会
委員長 金井 隆典(慶應義塾大学)	委員長 竹田 潔(大阪大学)
委 員 竹田 潔(大阪大学)	副委員長 坂本 直哉(北海道大学)
委 員 井戸 章雄(鹿児島大学)	委 員 飯島 英樹(大阪警察病院)
委 員 安藤 朗(滋賀医科大学)	委 員 大島 茂(東京医科歯科大学)
委 員 溝口 充志(久留米大学)	委 員 長沼 誠(関西医科大学)
委 員 竹原 徹郎(大阪大学)	委 員 渡邊 智裕(近畿大学)
委 員 久松 理一(杏林大学)	
役員選考委員会	財務委員会
委員長 井戸 章雄(鹿児島大学)	委員長 仲瀬 裕志(札幌医科大学)
副委員長 大塚 和朗(東京医科歯科大学)	副委員長 穂苅 量太(防衛医科大学校)
委 員 猿田 雅之(東京慈恵会医科大学)	委 員 石原 俊治(島根大学)
委 員 日浅 陽一(愛媛大学)	委 員 内田 一茂(高知大学)
委 員 藤原 靖弘(大阪市立大学)	委 員 中本 伸宏(慶應義塾大学)
国際交流委員会	利益相反・倫理委員会
委員長 溝口 充志(久留米大学)	委員長 竹原 徹郎(大阪大学)
副委員長 大野 博司(理化学研究所)	副委員長 大平 弘正(福島県立医科大学)
委 員 池嶋 健一(順天堂大学)	委 員 原田 憲一(金沢大学)
委 員 緒方 晴彦(慶應義塾大学)	委 員 馬場 重樹(滋賀医科大学)
委 員 松岡 克善(東邦大学医療センター佐倉病院)	委 員 中本 安成(福井大学)
教育委員会	広報委員会
委員長 久松 理一(杏林大学)	委員長 安藤 朗(滋賀医科大学)
副委員長 土屋 輝一郎(筑波大学)	副委員長 内藤 裕二(京都府立医科大学)
委 員 石黒 陽(弘前病院)	委 員 小林 拓(北里大学北里研究所病院)
委 員 新崎 信一郎(大阪大学)	委 員 藤谷 幹浩(旭川医科大学)
委 員 高木 智久(京都府立医科大学)	委 員 松浦 稔(杏林大学)
	委 員 渡辺 憲治(兵庫医科大学)



第58回 日本消化器免疫学会総会

The 58th Annual Meeting of the Japanese Society for Mucosal Immunology

会期 2021年7月2日(金)～3日(土)

会場 京都ホテルオークラ (<https://www.hotel.kyoto/okura/>)

会長 内藤 裕二 (京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学)

ニューノーマル時代の

粘膜
免疫

理事長講演

消化器免疫学の新潮流

金井 隆典 先生

(慶應義塾大学医学部・消化器内科学教室)

特別講演

消化管での生体防御における活性酸素生成酵素Nox/Duoxの役割

住本 英樹 先生

(九州大学大学院医学研究院基礎医学部門 生体制御学講座 生化学分野)

教育講演 1

腸管IgA抗体による腸内細菌認識制御機構

新蔵 礼子 先生

(東京大学定量生命科学研究所 免疫・感染制御研究分野)

シンポジウム1

ニューノーマル時代のウイルス感染症

シンポジウム2

がん免疫療法の成果と次なる挑戦

シンポジウム3

消化器免疫研究の最前線

教育講演 2

C型非代償性肝硬変の治療

竹原 徹郎 先生

(大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学)

若手入門編セミナー

教育講演 3

T細胞の加齢変化と免疫老化

濱崎 洋子 先生

(京都大学IPS細胞研究所未来生命科学開拓部門)

経鼻ワクチンと粘膜免疫

長谷川 秀樹 先生 (国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター)

抗菌ペプチドから粘膜免疫を理解する

綾部 時芳 先生 (北海道大学大学院先端生命科学研究院 自然免疫研究室)

その他、一般講演、共催セミナーなど

事務局

京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465

TEL:075-251-5650

事務局長：高木 智久／担当：石川 剛、内山 和彦、鎌田 和浩

運営事務局

日本コンベンションサービス株式会社 関西支社

〒541-0042 大阪市中央区今橋 4-4-7 京阪神淀屋橋ビル 2F

TEL : 06-6221-5933 E-mail : 58jsmi@convention.co.jp